話し合ってみよう

▶避難所で私たちにできることは

東日本大震災では，多くの避難所でたくさんの方々が長期間の避難生活を送りました。災害時は，私たちも避難者として生活することがあるかもしれません。震災当時の避難者の話から，それぞれの問題について私たちにできることを話し合ってみましょう。

（写真提供:宮城県東日本大震災文庫/東日本大震災アーカイブ宮城）

たくさんの人が身を寄せた避難所（南三陸町）

（写真提供:名取市/東日本大震災アーカイブ宮城）

食事を受け取りに並ぶ列（名取市）

避難者の声

トイレ

- 仮設トイレは足場が不安定で，うちのお父さんは足を踏みはずして便器の中に落ちそうになる。誰かに手伝ってもらいたいと思っても，周りはみんな被災した人たち。頼むことなんかできない。（女性　62歳）
- 避難者のトイレの使い方が汚い。（男性　49歳）
- 病気で骨盤を悪くして車椅子生活を送っている。避難所では多くの手助けを受けているが，トイレに行くのが大変だ。（女性　48歳）

食事

- 避難所の食事は足りてきた。むしろ自宅暮らしの人のほうが不足している。同じ被災者だから，分かちあいたい。（男性　42歳）
- 3か月の赤ちゃんがいるので衛生面が不安。哺乳瓶も1本しかない。大人は我慢できても子供のことを思うと大変だ。（女性　33歳）

風呂

- 早く風呂に入りたい。被災後，全く入浴できず，不快でたまらない。灯油不足で夜は寒く，眠れない。（女性　39歳）

ペット

- 愛犬2匹がいるので避難所の外の車で寝ている。犬がおかしくなってしまったが，ガソリンがなくて病院に連れて行けない。（女性　62歳）
- 一緒に避難した飼い犬が18日，死んでしまった。ストレスが原因だと思う。眠れない夜に思い出して，つらい。（女性　75歳）

その他

- 不便なのは洗濯。干す場所も洗濯ばさみもなくて苦労している。（女性　30歳）
- とにかく情報がほしい。働き口や住む場所は一体どうなるのか。（男性　47歳）
- 朝4時ごろになると，せき込む人が多い。水分が足りないからではないか。（女性　69歳）

（河北新報「避難所　いま」　2011年3月15日～30日掲載より抜粋）

話し合ってみよう

それぞれの問題について，私たちに何ができるか，また，どうあるべきか話し合ってみましょう。

東日本大震災の避難生活でも中学生が大きな力になった

東日本大震災で中学生たちは，災害直後の避難生活でも自分たちにできることを見つけ，積極的に取り組みました。新たなことでなく，普段から行ってきたことを生かし，避難生活の大きな力となりました。

物資の運搬

（登米市）

給水の手伝い

（岩沼市）

炊き出しの手伝い

（気仙沼市）

避難所の掃除

（山元町）

トピックス　避難所でのペット問題

東日本大震災のとき，飼い主と一緒に避難所に同行できたペットはごくわずかで，飼い主とはぐれたり，避難所での生活を拒否されたりしたペットも多数いました。また，ペットとの同行を断られたため，避難所での生活を断ってペットとともに自動車で生活した人たちもいました。2013（平成25）年，環境省が『災害時におけるペットの救護対策ガイドライン』を策定し，災害時の同行避難を打ち出しました。避難所では，多くの人が狭い空間で共同生活を送ります。人とペットが一緒に避難生活を送るには，どのようにしたらよいのでしょうか。

同行避難のためのルール作りが今，求められています。

（参考:「動物の愛護と適切な管理」環境省HP）